

## 植物保護学特論演習 I (2 単位)

担当者氏名 長島孝行・小島弘昭・石川 忠

### ◆学習・教育目標（到達目標を記載）

応用昆虫学を専攻する大学院生の研究活動支援プログラムである。研究テーマが院生一人一人異なることから、個人的な指導が中心となる。主な指導内容は、①技術的サポート：実験計画の立案、野外調査法、実験計画および実施法、日本語・英語による文章表現法（論文作成法）、プレゼンテーション法（学会発表法）など、②知識的サポート：関連文献の紹介、研究内容の検討、論文作成の実践など。

### ◆取り扱う領域（キーワードで記載）

昆虫	害虫管理	資源探索と利用	昆虫利用学
昆虫生態学	昆虫生理学	昆虫形態学	昆虫分類学

### ◆授業の進行等について

	テーマ	内容	準備学習（予習復習）等の内容と分量
1	実験計画の立案など（1～2週）	実験計画の立案および研究題目の決定などをサポートする	研究の目的や目標を整理しておく
2	調査法・実験法（3～6週；期間外も適宜対応）	実験計画に沿って行われる調査や実験の技術的サポートをする	研究目的に沿って調査・実験計画を立てておく
3	プレゼンテーション法ならびに文章表現法（7～11週；期間外も適宜対応）	学会発表を視野に入れて口頭発表の技術的サポートをする。また、論文の作成に関連して日本語や英語の文章表現をサポートする	学会発表用スライドや各自が書いた原稿を校閲するので、準備しておく。積極的な学会発表および論文執筆を期待する
4	研究内容の検討（12～13週；期間外も適宜対応）	研究の進み具合とその内容を検討し、完成までのサポートをする	常に研究内容を整理しておき、教員が求めたときに示せるようにしておく
5	進捗状況の発表（14週）	進捗状況を発表して内容について議論する	研究の進展状況発表の準備
6	これまでの総括（15週）	今後の研究方針などの中間チェック	

### ◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）  
必要に応じ配布する

### ◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）  
必要が生じたときに紹介する

### ◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

レポート及び口述試験により評価する

### ◆オフィスアワー

月曜（14:00～17:00）

---

◆その他受講上の注意事項

特になし

---